

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格： 准教授

氏名： 秋葉 倫史

研究課題		現代英語における助動詞省略型完了形と文法化の関係性
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>研究目的 本研究では、助動詞 have を持たない用例を BNC 等の現代の実例から抜粋し、その特徴と変遷を明らかにすること及び、その変化の方向を文法化理論の観点から説明することを目的とする。</p> <p>研究概要 ① BNC 等のコーパスや一般的な現代英語の文献から当該完了構造の例を収集・分析を行う。 ② 完了形の変化の方向性を示す基礎研究として、近現代以前の完了形の変遷を調査する。 ③ ①及び②で得た変遷のデータを、「文法化」理論の観点から検証する。</p>
	研究成果	<p>① 一般的な文献から簡易のデータベースを作成し、助動詞を用いない完了構造の用法を検証した結果、使用頻度は限定的で、特定の文脈に現れる可能性を示唆した。 ② 現代英語の完了形の発達を示す前段階として、初期英語における完了形の変遷と文法化の関連についてまとめた。また、ゴート語の完了を表す接頭辞と完了形の発達の関係性を調査し、その接頭辞の消失が、完了形の発達を促進させる可能性を示した。また、近現代英語までの変化を概観し、全体的な変化は文法化の流れに沿ったものであることを確認した。 ③ 上記②の内容をまとめ、湘南英文学会『湘南英文学 第13号』に投稿し、2018年12月に掲載された。</p>
研究業績	<p>・論文および著書</p> <p>著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	論文:秋葉倫史・「初期英語における have 完了形の変遷と文法化」・湘南英文学会 湘南英文学・査読あり・第13号・2018年・45-73ページ.
	<p>・学会発表等</p> <p>発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	なし
	<p>・その他</p> <p>*学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等</p>	なし